

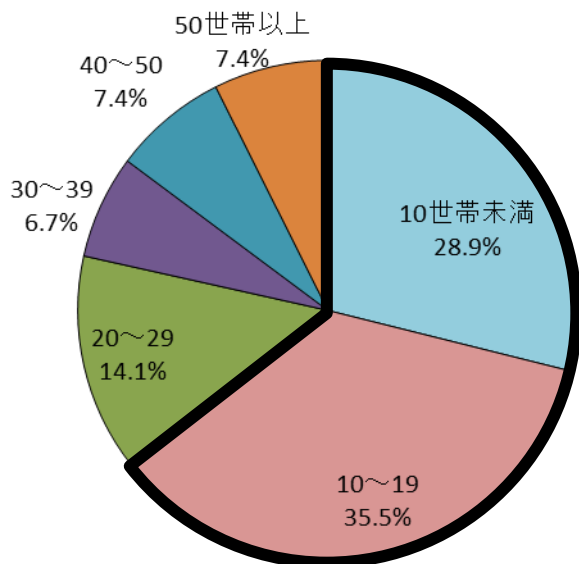
(1) 対象集落の概況

対象集落の状況

○対象集落は20世帯に満たない集落が6割以上を占める。

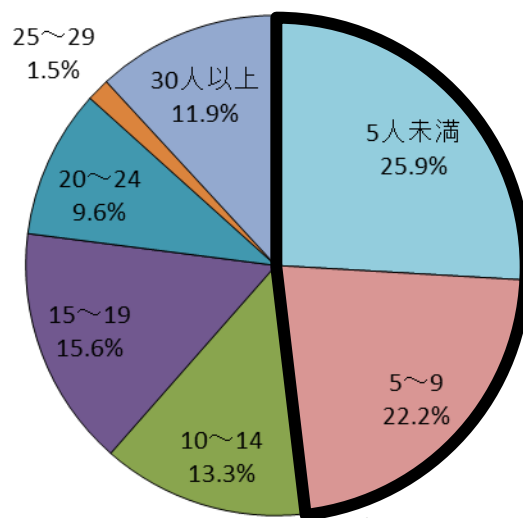
○また、壮齢人口(30～64歳)が10人に満たない集落が約半数となっている。

世帯数別の集落割合



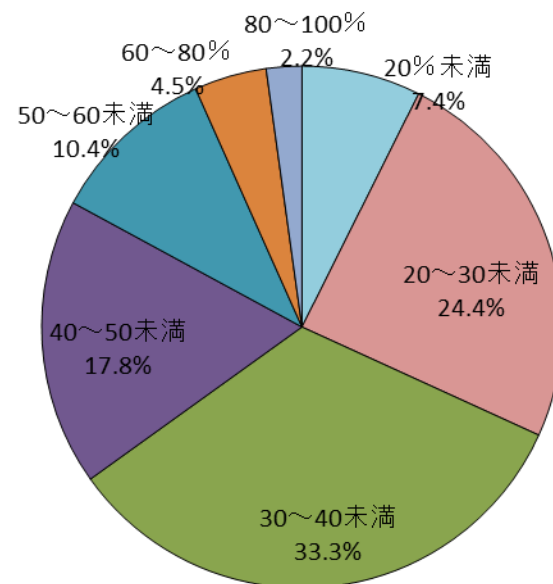
6割以上

壮齢人口(30～64歳)数別の集落割合



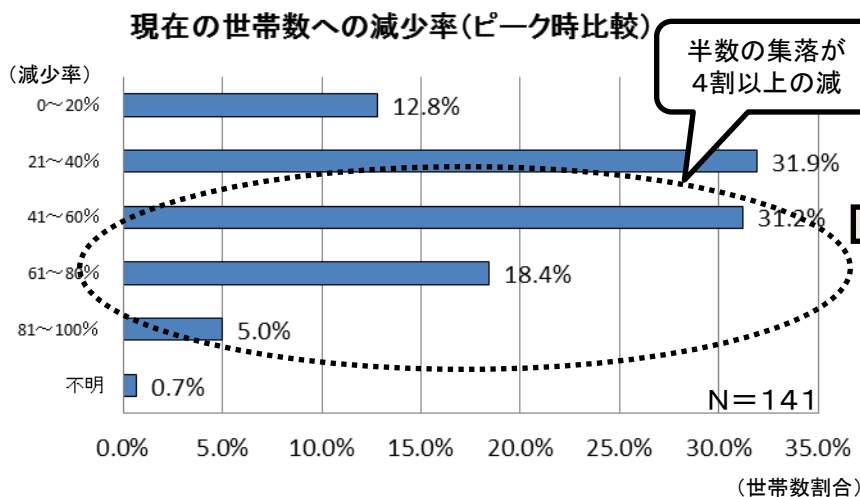
約5割

75歳以上人口割合別の集落割合



集落の小規模化・高齢化

- 約半数の集落は高度経済成長期以前をピークとし、4割以上の世帯が減少した。
- 就労環境が主な要因。
- 全世帯の約半数は高齢者のみ世帯。



世帯数が減少した要因

分類	意見数	割合(意見数/N)
少子高齢化の影響	8	5.7%
就労環境	121	85.8%
交通	17	12.1%
生活環境(買い物など)	11	7.8%
教育環境	7	5.0%
ダム建設による移転	5	3.5%
近所の付き合いの負担	3	2.1%
雪に対する不安	5	3.5%
その他	18	12.8%
無回答	1	0.7%

N=141

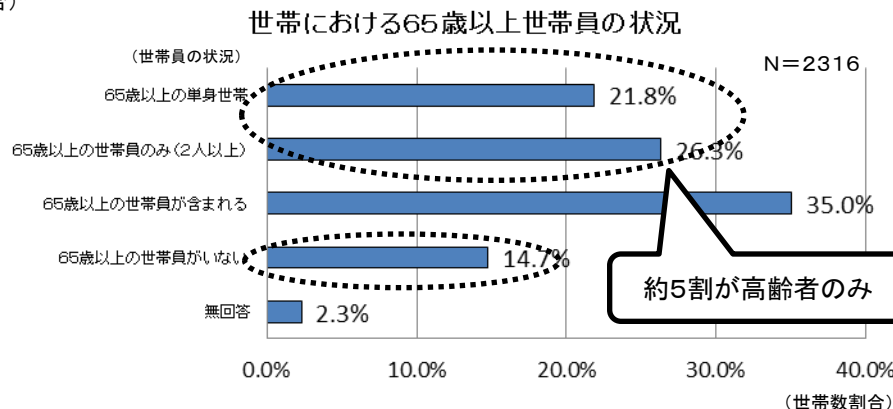
就労環境が主な要因

(世帯数が減少した要因に係る主な声)

「仕事が無くて跡継ぎは出て行ったけど、仕事も無いこんな状況では帰ってこないって言えないよ。」(高山市A集落自治会長インタビュー)

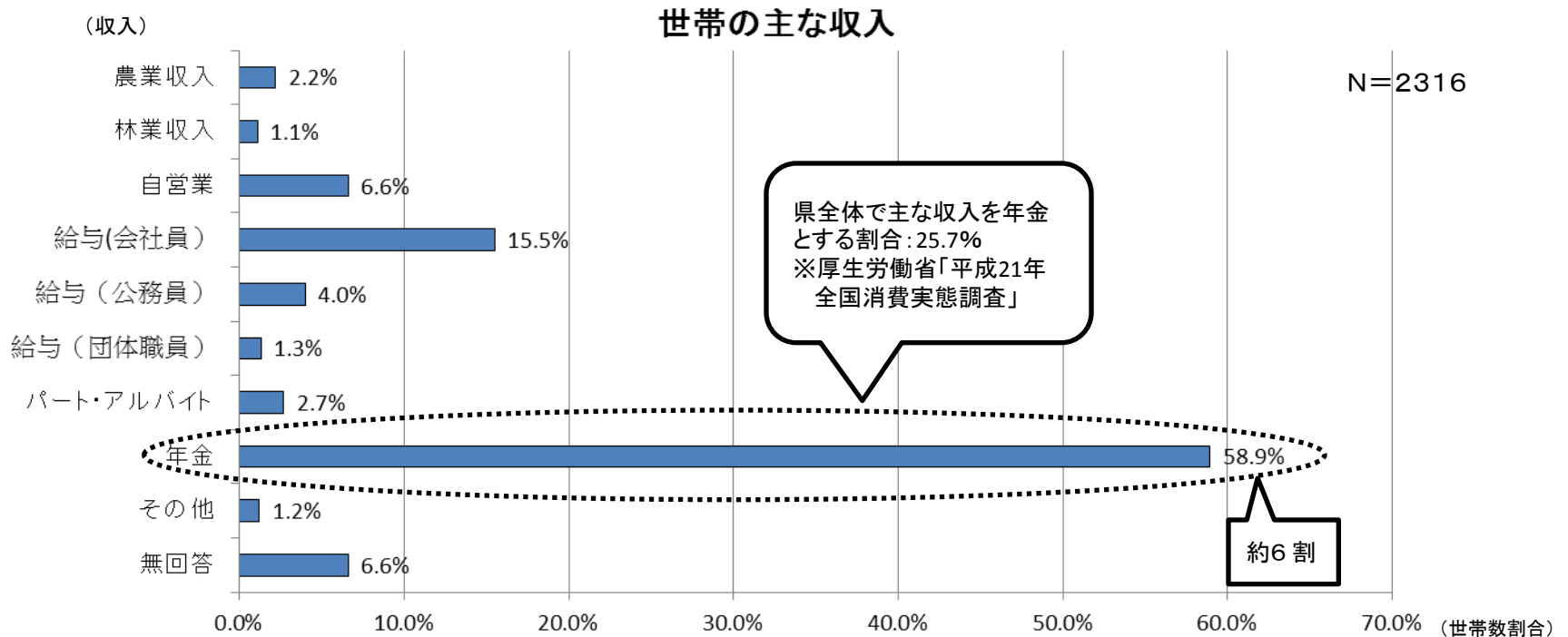
「木を切ってもちっとも食べれなくなったので、みんな現金収入欲しさに集落を出て行ってそれっきりだよ。」(飛騨市B集落自治会長)

- ・仕事が無いので後継者が出て行った。
- ・まちと比べて交通が不便で生活環境も悪かった。
- ・学校(高等学校)が無く、進学後そのまま帰ってこない。
- ・出生率の低下。



現在の就労環境

- 世帯の主な収入源は約6割が年金。
- 地元企業が少ない、雇用がないという声が多い。



(就労環境に関する声)

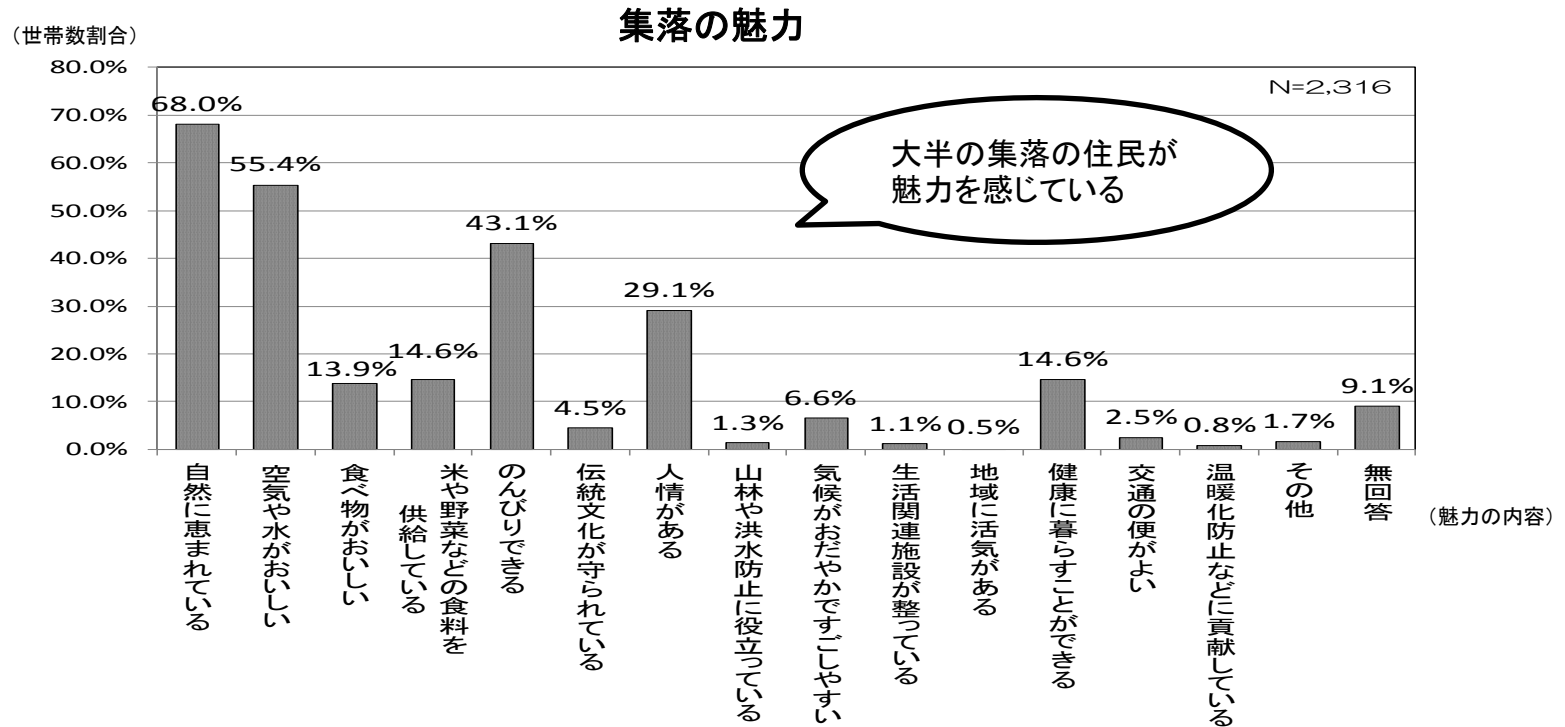
「地元で若い子が働く場所がないんだからなんにしようもないよ。」(下呂市C集落自治会長インタビュー)

「なんとか集落の跡継ぎらがずっと住めるように近場にいい働き口があるといいんだけど、まちだって大変なんだから難しいよね。」(白川町D集落自治会長インタビュー)

- ・地元で雇用がない。
- ・地域で働ける場所を誘致してほしい。

集落の魅力

○集落には恵まれた自然や人情など多くの魅力が存在する。



地域でのじまん

自然資源・・・自然の景観、湧水、鮎、あまご、山菜 等

歴史文化資源・・・古木、湿原、伝統的な建造物、古い祭り 等

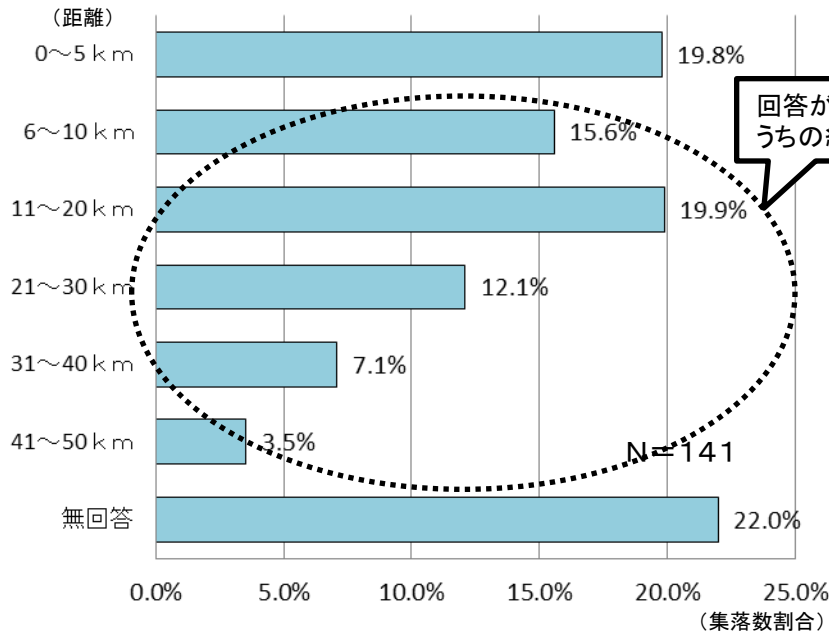
産業資源・・・飛騨牛、自然薯、山椒、トマト、薬草、しいたけ、米、茶、和紙 等

(2) 日常生活の状況

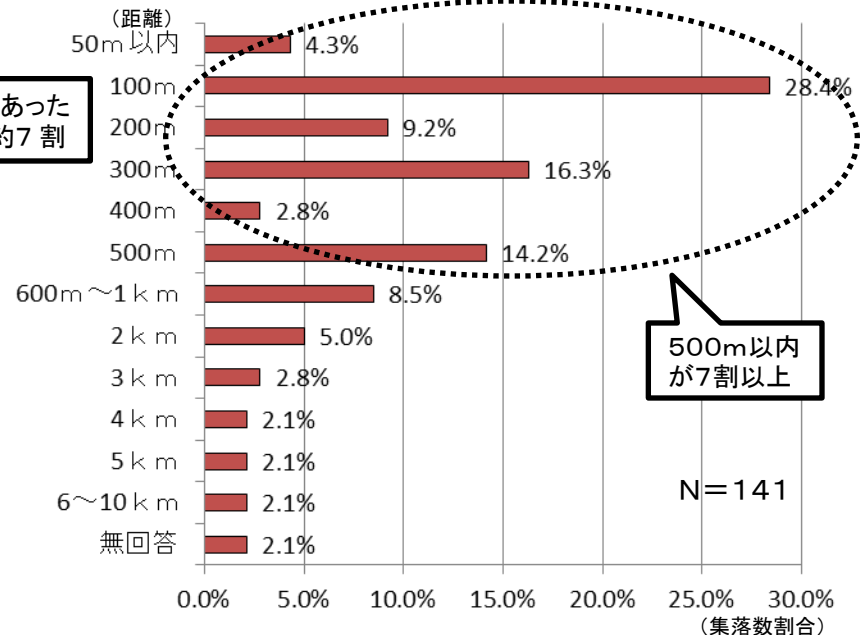
主要な公共交通機関の状況

- 最寄駅までの距離は遠く、利便性が悪い。
- バス停までの距離は比較的近いが、バスの本数が少ないなど不便な実態がある。

最寄駅までの距離



最寄バス停までの距離



(鉄道、幹線バスに関する声)

「バスはあるけど一日に数本しか走ってないんだよ。たまに使うけど帰りはどうしてもタクシーになっちゃうね。」(下呂市E集落自治会長インタビュー)

「毎日じゃないけど独り身の人らに声をかけて車で買い物やらに連れて行ってるよ。」(山県市F集落自治会長インタビュー)

- ・最寄りのバス停まで遠いので、自家用車が運転できなくなったら不安。
- ・集落で人生最後まで暮らすためには交通手段の確保が重要。

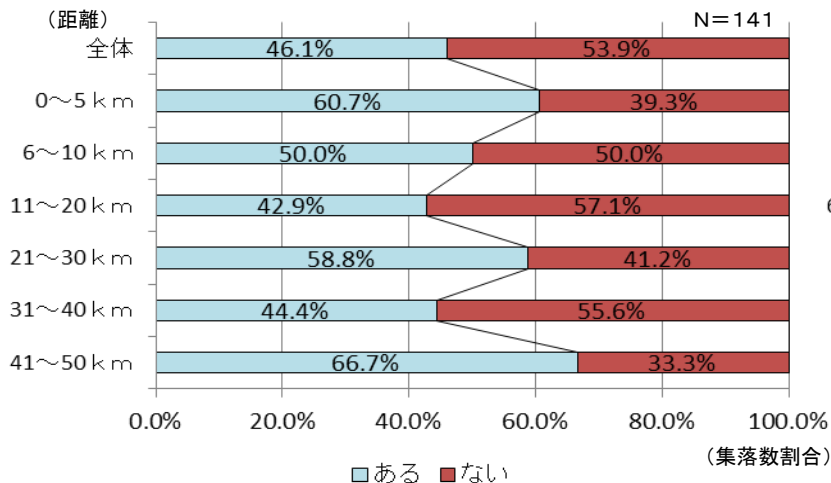
実態は不便であったり、自家用車への依存、地域の支え合いによる現状もある



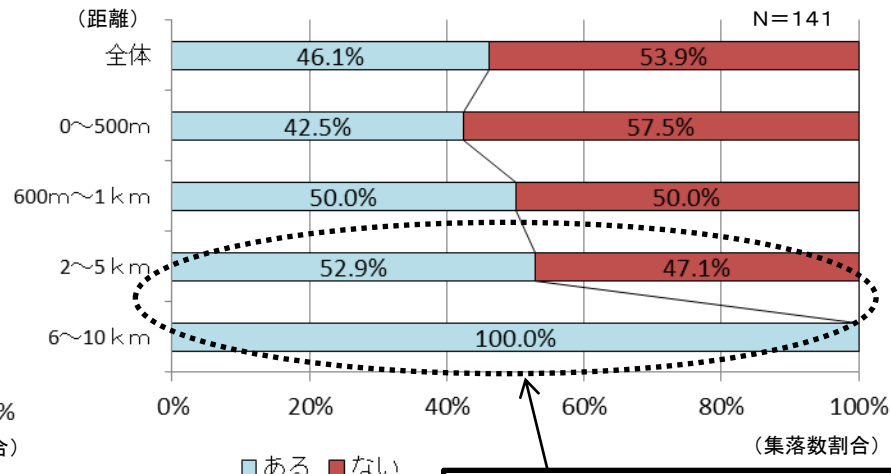
その他の支援サービスの状況

- 最寄バス停までの距離が遠い集落ほど他に補完する移動・送迎サービスは多い。
- バス停までの距離が遠いなど不便な実態もあり、デマンド型交通を求める声が多い。

他の移動・送迎サービスの有無(駅までの距離別)



他の移動・送迎サービスの有無(バス停までの距離別)



(他の移動・送迎サービスに関する声)

「コミュニティバスが走っているけどバス停まで遠くてね。一日に何本かでも集落まで入ってくれるといいんだけど。」(揖斐川町G集落自治会長インタビュー)

「やっぱりバスっていうのは自由がきかない。大抵の人は自家用車ばかりだね。でも年寄りには病院の送迎バスはありがたいと思うよ。ずっと続けてほしいよ。」(白川町H集落自治会長インタビュー)

- ・バスは不便なのでデマンドタクシーのようなものが欲しい。(集落の26.2%)
- ・地域を循環するコミュニティバスが運行している。
- ・市から65歳以上の住民にタクシーの補助券が支給される。
- ・現状の制度を維持して欲しい。(集落の38.3%)

遠い地域ほど補完するサービスがある

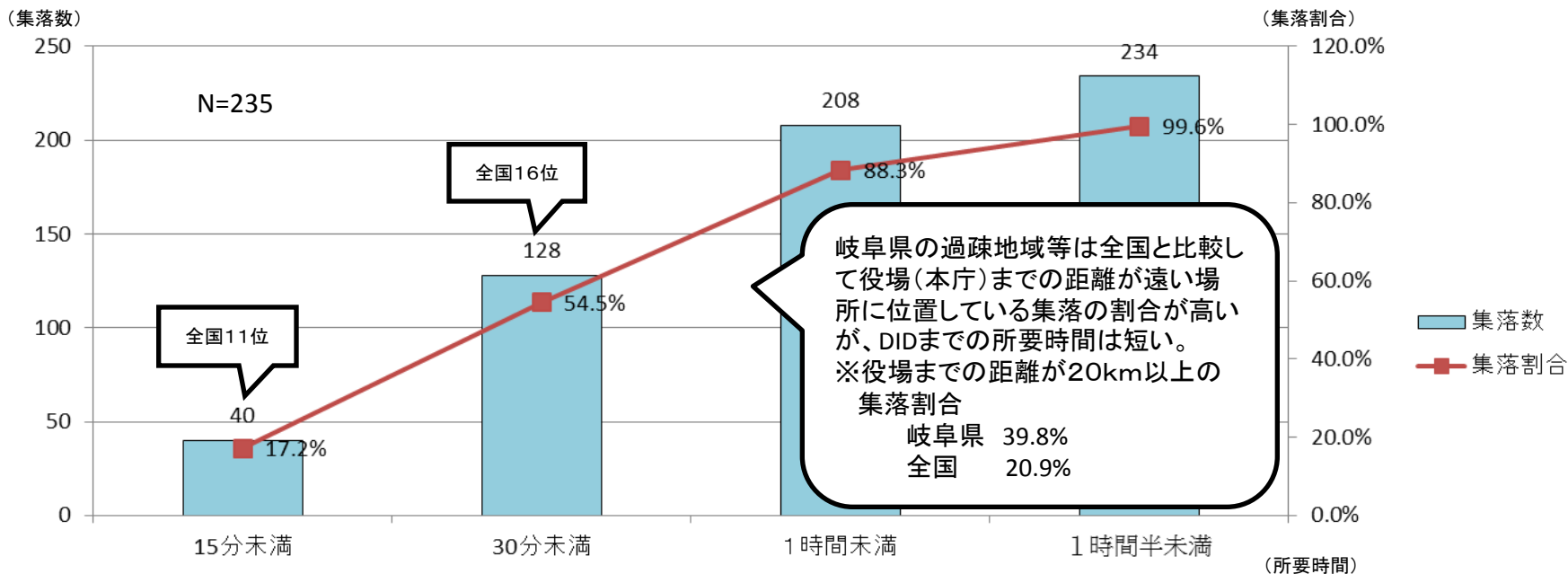
- ・地域内循環バス
- ・病院バス
- ・買い物バス 等

実態は不便であったり、ニーズに合っていない現状もある

まちまでの所要時間

○岐阜県の過疎地域にある農業集落のDID(人口集中地区)までの所要時間は全国に比べて良好な状況にある。

過疎地域にある農業集落のDIDまでの所要時間



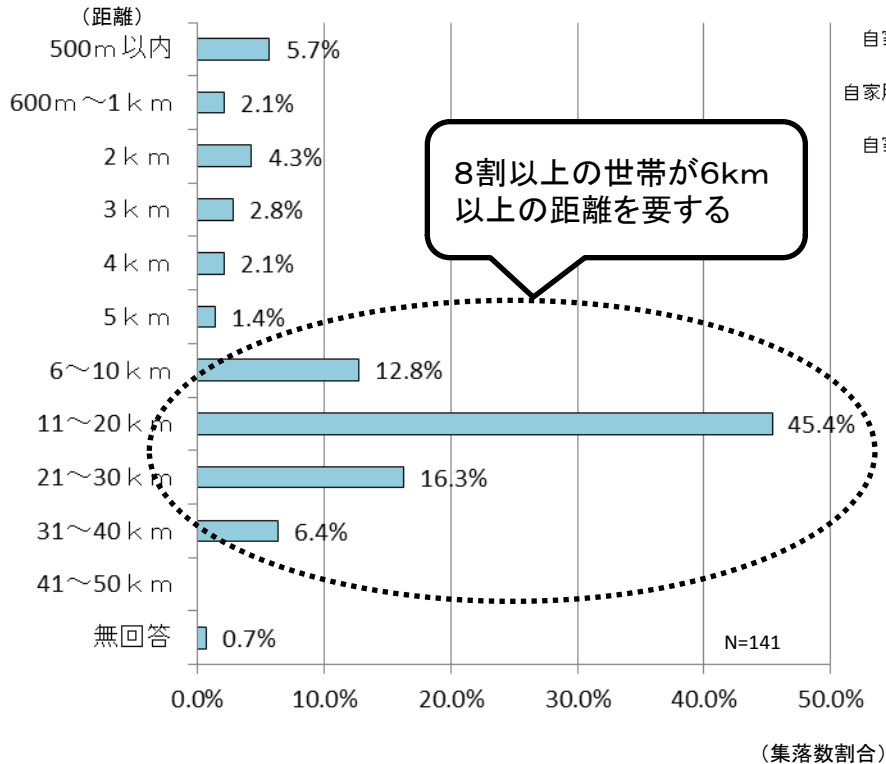
※DID(人口密集地区): 人口密度約4,000人/km²以上の国勢調査基本単位区がいくつか隣接し、合わせて5,000人以上を有する地域。
 (例: 岐阜市、大垣市、関市、美濃市、中津川市、多治見市、土岐市、高山市等で各市町村本庁よりも数は少ない)

大半の集落が1時間かからず都市部へ行けるため、自家用車があれば不便が少ない。

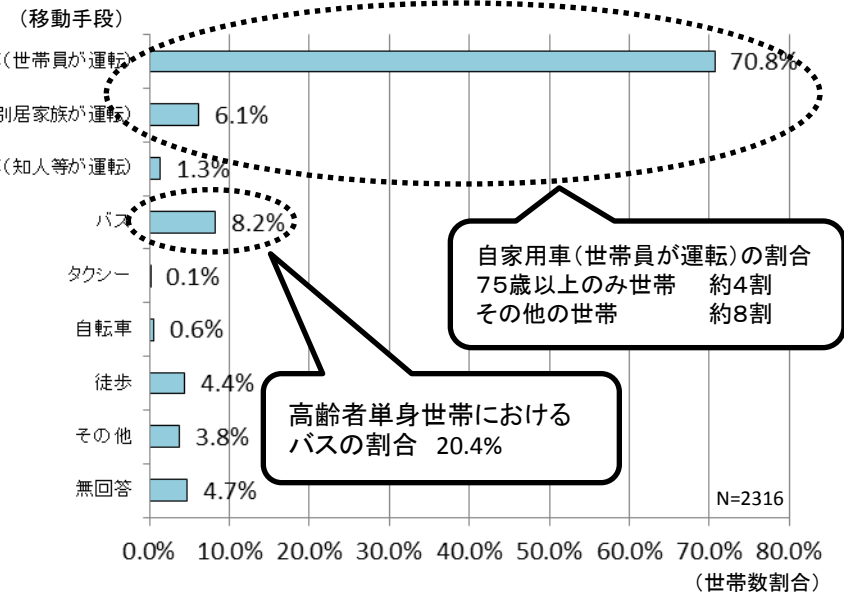
買い物の状況

- 8割以上の世帯が6km以上離れた場所へ行く。
- 移動手段の多くは自家用車であるため不便は少ないが、65歳以上の単身世帯はバスも貴重な手段となっている。
- 高齢化により、公共交通機関等のニーズは高まる。

食料品等の購入場所までの距離



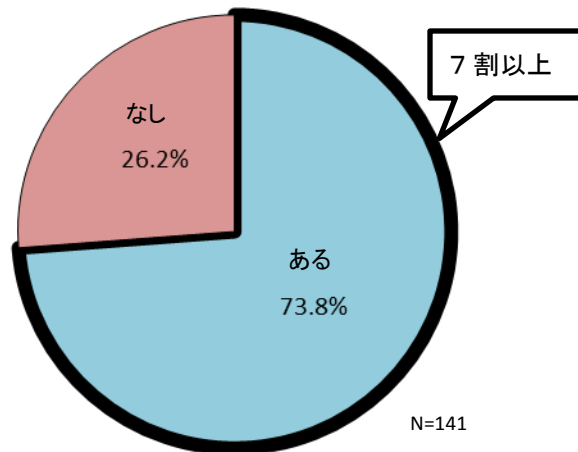
買い物の移動手段



「10年後の状況」
 今回、調査対象とした世帯のうち50~64歳の構成員割合は約2割。
 →10年後には65歳以上が更に増加するため、自家用車の運転が困難となる世帯割合(自動車運転免許証の自己返納する年齢は70~74歳が最も多い)。
 ※県警聞き取りが増え、その他の公共交通機関等のニーズが高まる。

- 7割以上の集落に買い物支援サービスがあり、買い物環境を補完している。
- 将来に望むサービスは移動販売、宅配サービス、移動支援など多様化する傾向にある。

買い物支援サービスの有無



(主なサービス)

移動販売
 地元商店・JA等の宅配サービス
 商店・スーパーへの移動支援
 地元商店への経営支援
 買物代行 等

今後あったらよいと思うサービス

分類	意見数	割合 (意見数/N)
移動販売	61	43.3%
インターネット等による通信販売	4	2.8%
地元商店・JA等による宅配サービス	19	13.5%
商店・スーパーへの移動支援 (デマンドタクシー・送迎バス等)	17	12.1%
地元商店への経営支援 (補助金支給等)	8	5.7%
買物代行	6	4.3%
地元商店の営業継続、商店の新設	4	2.8%
特になし (現状のままでよい)	23	16.3%
その他	3	2.1%
無回答	5	3.5%

N=141

(買い物支援サービスに関する声)

「やっぱり自動車が運転できなくなったら不便を感じると思う。いずれは移動販売や宅配サービスがあると助かると思うね。」(高山市I集落自治会長インタビュー)

「買い物はかさばるからデマンドタクシーみたいな家の前まで来てくれるサービスがあると年寄りにはいいけどな。」(高山市J集落自治会長インタビュー)

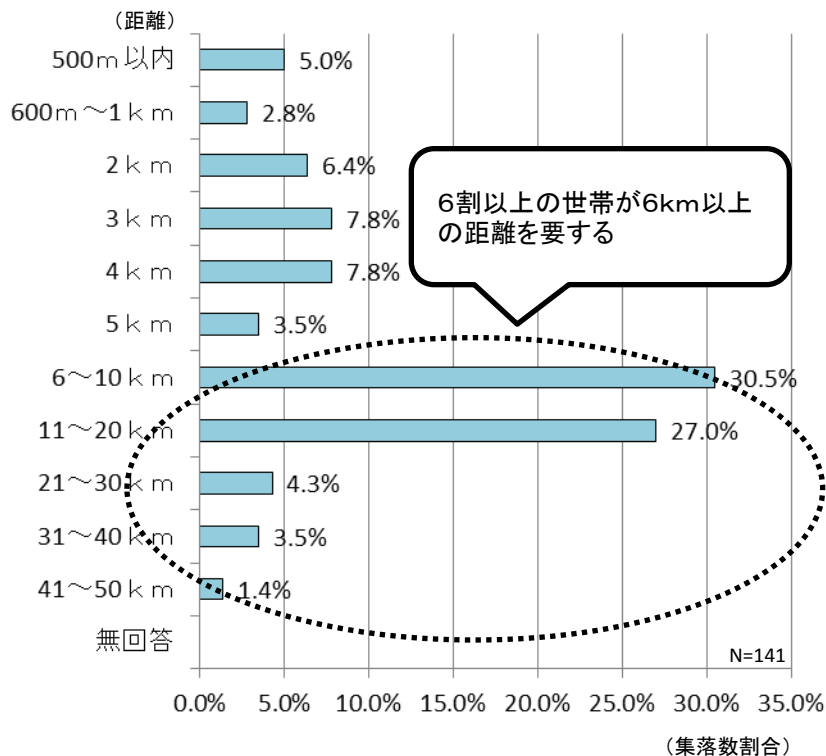
「移動販売車は人気があるけど、買う量がしれてるので商業ベースではどこも厳しい。イオン、オークワが県内全域を対象とした宅配サービスをやってみたいだ。」(過疎地市町村行政関係者)

- ・移動販売車が週1~2回まわってくる。
- ・店まで送り迎えしてくれる。

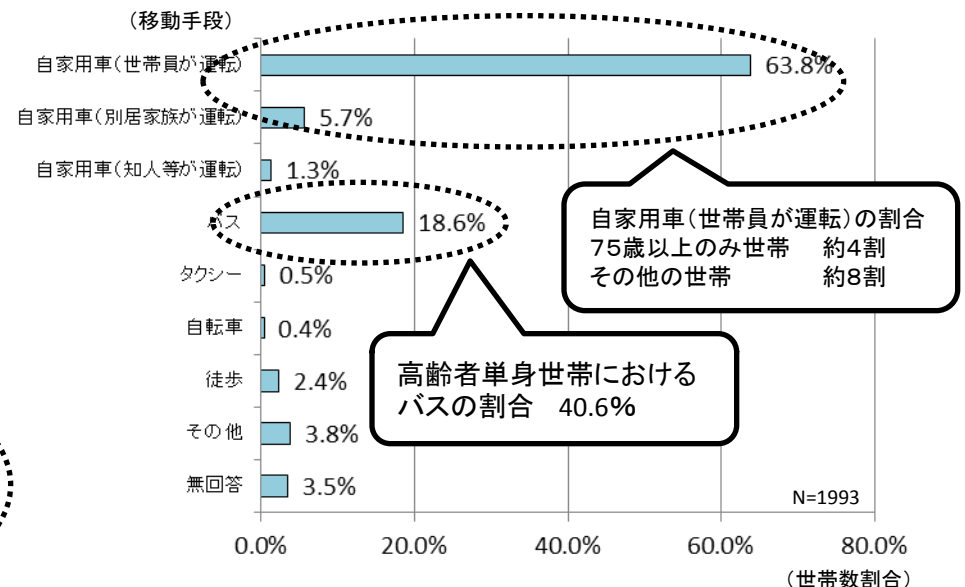
通院の状況

- 6割以上の世帯が6km以上離れた場所へ行く。
- 移動手段の多くは自家用車であるため不便は少ないが、65歳以上の単身世帯はバスも貴重な手段となっている。
- 高齢化により、公共交通機関等のニーズは高まる。

通院する病院までの距離



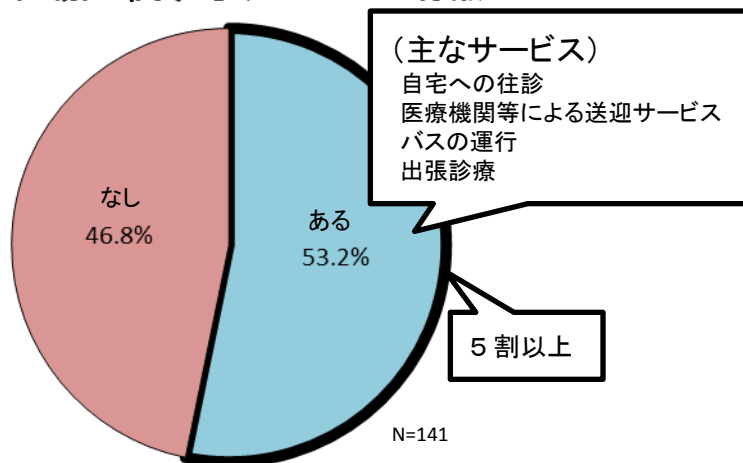
通院の移動手段



「10年後の状況」
 今回、調査対象とした世帯のうち50～64歳の構成員割合は約2割。
 →10年後には65歳以上が更に増加するため、自家用車の運転が困難となる世帯割合(自動車運転免許証の自己返納する年齢は70～74歳が最も多い。
 ※県警聞き取り)が増え、その他の公共交通機関等のニーズが高まる。

- 5割以上の集落に医療に関するサービスがあり、通院環境を補完している。
- 病院の整備等は求めておらず、移動に関する要望が大半である。

医療に関するサービスの有無



今後あったらよいと思うサービス

分類	意見数	割合 (意見数/N)
介護タクシー、福祉バス、 病院・福祉施設への送迎サービス	14	9.9%
デマンドバス、デマンドタクシー	37	26.2%
バスの本数の増加	26	18.4%
特になし (現状のサービスの維持)	54	38.3%
その他	17	12.1%

N=141

(医療に関するサービスに係る声)

- 「今は体も動かし運転できるからいいけどできなくなったら困るよな。送迎サービスやバスがないと大変になるんだろうな。」(飛騨市K集落自治会長インタビュー)
- 「とにかくバスは数がない。せめて病院の営業時間にダイヤを合わせてほしい。」(飛騨市L集落自治会長インタビュー)
- 「年寄りにはバス停までに行くのが大変なんだよ。通院専用のデマンドバスがあったらいいと思うよ。」(高山市M集落自治会長インタビュー)
- ・市のコミュニティバスが診療所の時間に合わせて走っている。
 - ・医療機関による無料バスがある。
 - ・現状のままでよい。(集落の34.8%)

ほとんどは移動に関する
要望



便利な移動手段
があれば困らない



除雪の状況

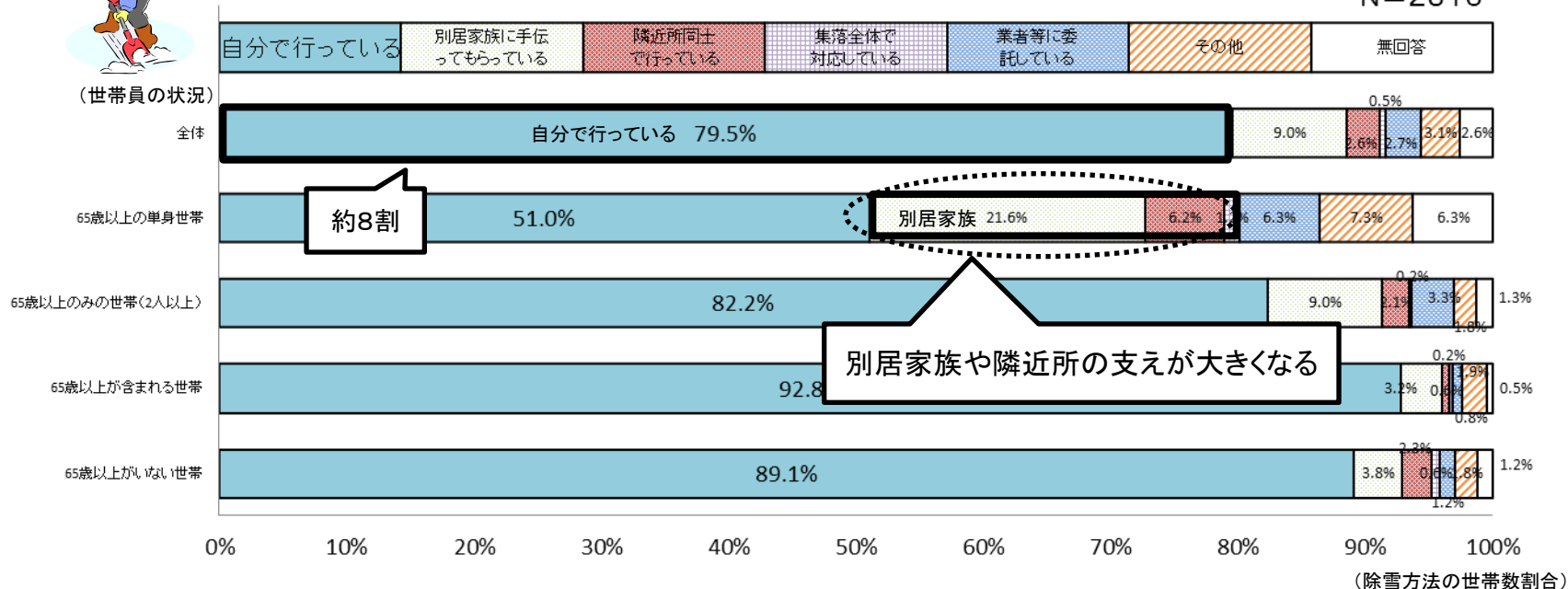
○8割の世帯が自ら除雪を行っている。

○65歳以上の単身世帯では、別居家族や隣近所で支え合っている。



世帯員状況別の除雪方法

N=2316



(除雪に関する声)

「雪とは一生向かい合っていないといけないが、どうすればいいか答えもない。」(飛騨市N集落住民代表インタビュー)

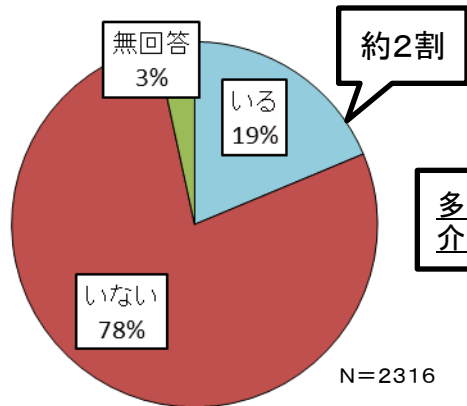
「人情が厚くて住みやすい所と思うけど冬の雪囲いや雪かきが大変で雪さえなければという気持ちは常にある。」(飛騨市O集落自治会長インタビュー)

「ここは雪が凄いから雪かきできなくて冬の間だけ子どものところに行く人がいますよ。」(下呂市P集落自治会長インタビュー)

介護の状況

- 介護者の約半数は世帯員である。
- 65歳以上の単身世帯では別居家族が介護者として支える割合が増加する。

家族に介護される方



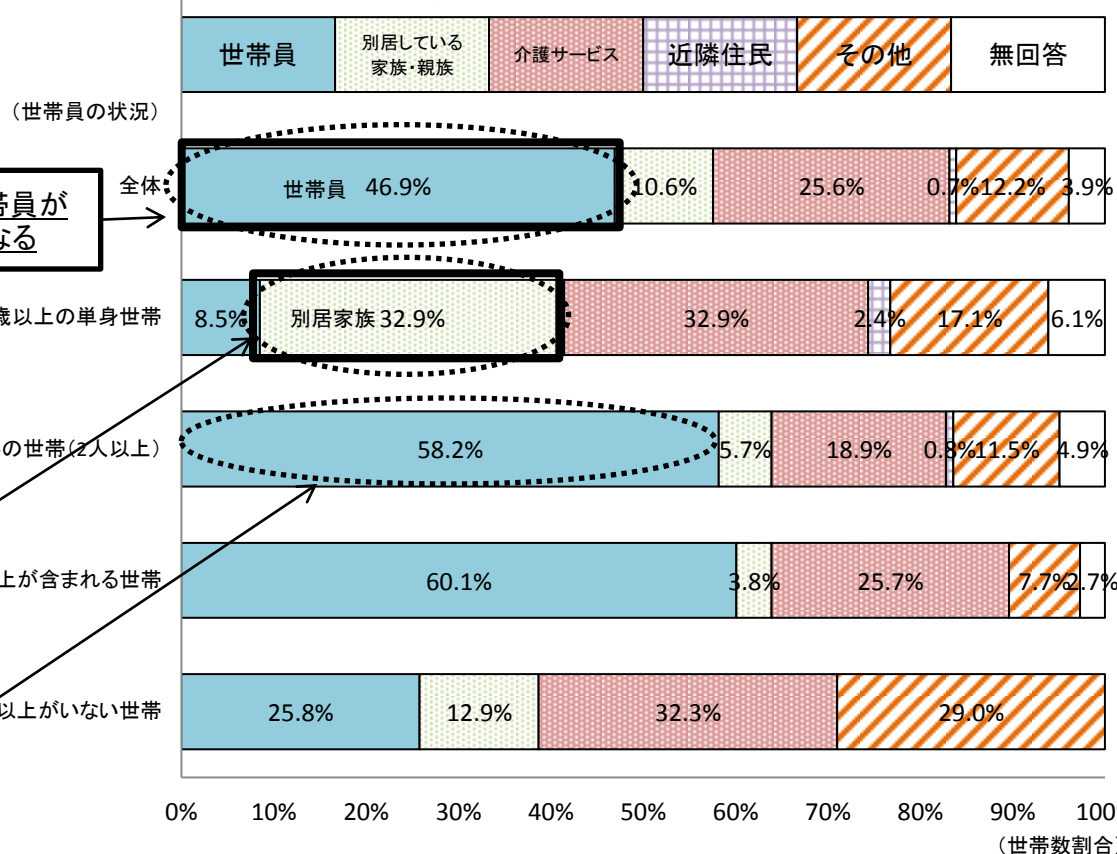
約2割

多くは世帯員が介護者となる

65歳以上の単身世帯では別居家族が増加

65歳以上のみの2人以上世帯では6割が老々介護の状態

介護者(65歳以上世帯員の状況別) N=433

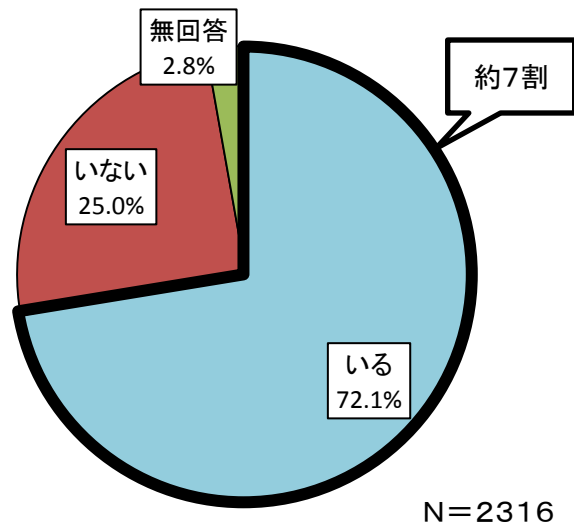


*過疎地域集落实態調査(H23-24)

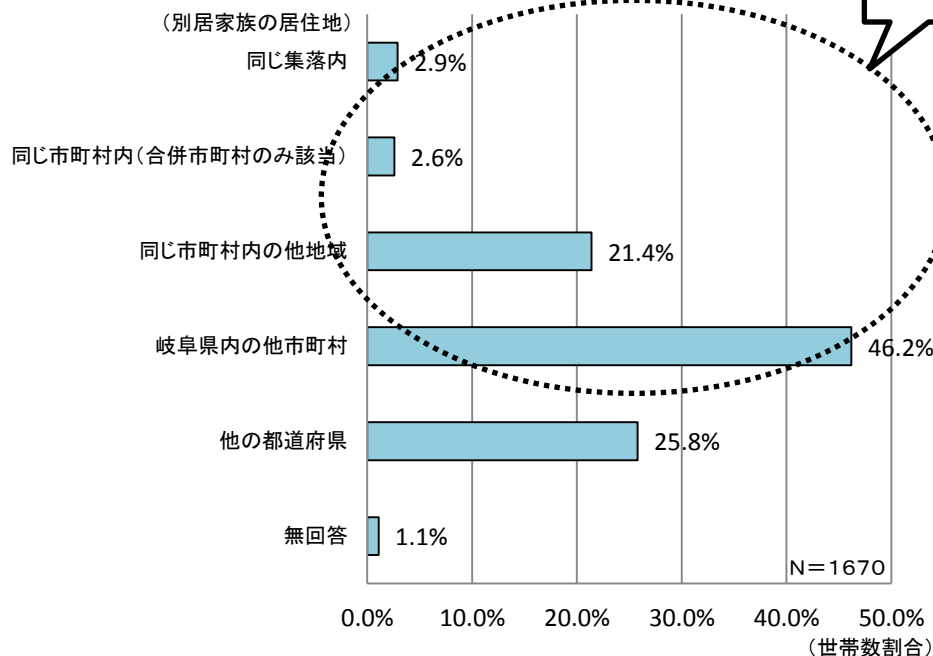
支え合いの状況

- 7割以上の世帯で別居している家族がいる。
- 最も近くに住んでいる別居家族の7割以上が県内、同一市町村に住んでおり、日常生活を支えている。

別居している家族の有無



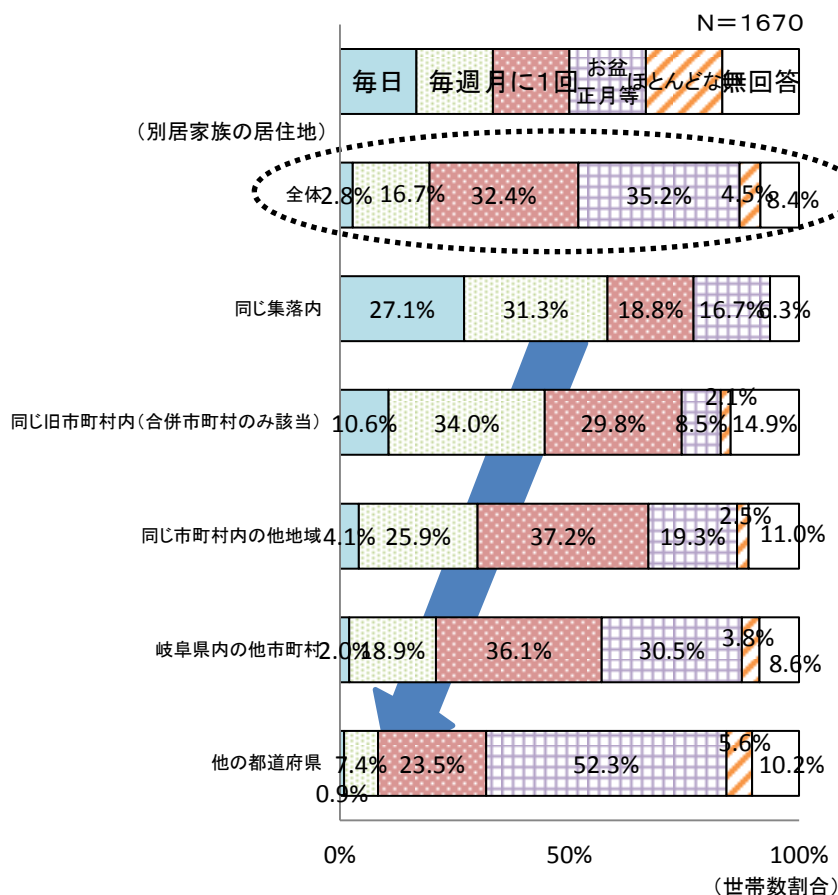
別居家族のうち最も近距離の居住地



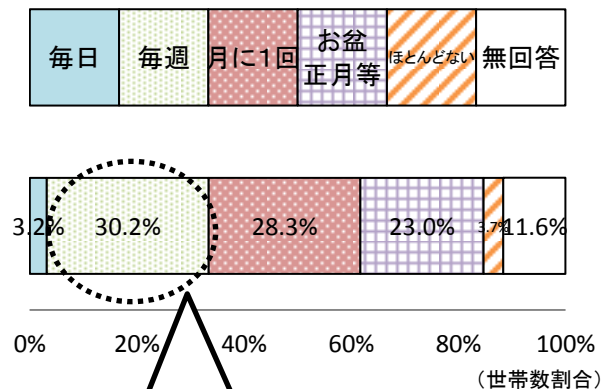
実際の別居家族とのつながりはどうか？

○遠くに住んでいる別居家族ほど訪問頻度は減少するが、65歳以上の単身世帯など支えが必要な状況であれば訪問頻度が増加する。

別居している家族の訪問頻度



65歳以上の単身世帯への訪問頻度



本当に助けが必要であれば支え合う

○集落では別居家族や隣近所による支え合いが多く、生活に必要不可欠となっている。

～集落の人々の声(聞き取り調査による)～

(集落の支え合いへの想い)

・「人とつながりが強いってことがこういう田舎の一番いいところだよな。

集落の誇りといったそれぐらいだけどそれが一番なんじゃないかな。」

(高山市Q集落自治会長インタビュー)

・「みんなで助け合ってなんとかやっているけど、こういう関係がなくなったら

大変だよ。きっと暮していけない人がでてくるだろうね。どうしたらこのま

ま助け合っていけるかが僕が一番心配していることだね。」(下呂市R集落自治会長インタビュー)

・集落には人情が厚くていい人ばかり。

(日常生活での支え合い)

・「隣の若い衆が気のいい子で買い物に行く時にはいるもんはないかとしょっちゅう声かけてくれるで本

当にたすかつとる。」(高山市S集落自治会長インタビュー)

・「下(しも)に息子が住んでるから大体のものは買ってきてくれる。週末には孫を連れて泊まりに来るし

賑やかだわ。」(飛騨市T集落自治会長インタビュー)

・集落で声を掛け合い自家用車を相乗りさせてもらっている。

・集落の住人には会合で隣近所を連れて買い物に行くよう呼びかけている。



(雪かきでの支え合い)

- ・「大雪が降るとまちに住んでる娘夫婦がかいてくれるでいいけど、年寄りばっかじゃどうもならんぞ。」
(飛騨市U集落代表インタビュー)
- ・「足の悪いおばあちゃんが独りで住んでいるけど、そんなものできるわけないから自分がやるしかしょうがない。」(飛騨市V集落自治会長インタビュー)
- ・集落全体で雪かきを助け合っている。

(介護・安否確認)

- ・「独居の人らもけっこういるけど一日中顔を見ないと必ず電話してるよ。あと火の始末に気をつけてよとかもね。」(八百津町W集落自治会長インタビュー)
- ・毎日夕方にまちへ嫁いだ娘が介護をしに帰ってくる。
- ・集落外へ出て行った息子や娘が電話をかけてくる。
- ・日常的に近所の人が気にかけている。



(支え合いの事例)

- ・白川町のX集落では近隣の3つの集落で1人ずつ有志を集め、生活の足に苦勞している高齢者のために、日常的に自家用車で送迎を行っている。
また、費用はガソリン代程度を徴収するのみで経済的なのでみなに感謝されている。
- ・下呂市のY集落は全9世帯の全てが65歳以上の高齢者のみの世帯という高齢化率100%の集落であるが、その自治会長が全世帯に目を配り、買い物はみんなを自家用車で連れて行き、冬は集落全体の雪かきを建設機械を使いながら陣頭指揮している。
- ・高山市のZ集落では、高齢者の安否確認のため、元気であれば朝に家の前に黄色い旗を立て夕方方にはずず取組みをしている。なお、その旗の上げ下げがなければ誰かが安否確認をするという仕組みで支え合っている。
- ・飛騨市のA集落はここ数年で6世帯が増えた。ほとんどがUターンで以前から親の支援をしていたようだが、ついに面倒をみるために帰ってきた。

○集落では多くの苦労を伴いながら支え合い、なんとか暮らしをつないでいる状況がうかがえる。

(厳しい状況)

- ・「昔に比べて隣近所の結び付きも薄くなってきていると思うな。助け合いも少なくなりなんだか活気がなくなっている気がするね。」(関市B集落自治会長インタビュー)
- ・「隣近所の絆がやっぱり薄くなってきてる。昔は農作業もみんなと一緒にやっていたことを思いだすな。」(郡上市C集落代表者インタビュー)
- ・「旦那がUターンしても嫁がついて来ないんだよ。これじゃあ普段から来たくてもこれない旦那は多いと思うよ。」(恵那市E集落代表者インタビュー)
- ・「自家用車でみな相乗りして買い物に行くけど全員が年寄りなので危なっかしくてしょうがない。正直言って事故が怖いけど、今のところ仕方ないと思ってる。」(白川町G集落自治会長インタビュー)
- ・「自分も80歳を過ぎているのに近所にもっと動けない独り身のお婆さんが大勢いるから、そこら中の雪かきをしているけど、俺が死んだら誰がやるんだと思うよ。」(下呂市H集落自治会長インタビュー)
※参考(平成17年警察白書):自動車乗車中死者数の約25%は65歳以上(平成16年)
- ・「子どもが雪下ろしにくるところはいいが、来ないところはみんなで作ってる。冬はどうしようもないので子どものもとに帰る人もいるくらいだよ。」(下呂市I集落自治会長インタビュー)



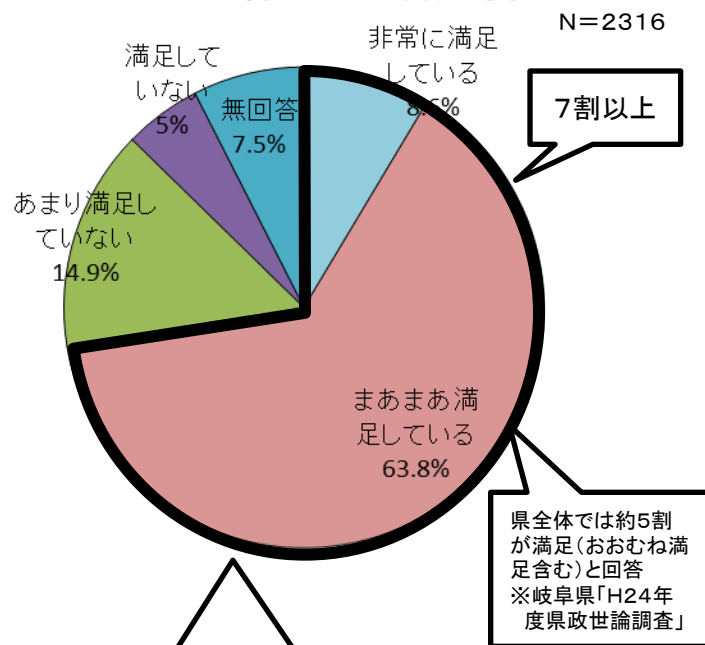
～別居家族の声(聞き取り調査による)～

- ・「飛騨の実家の雪下ろしはシーズンになると月2回やらなきゃいけない。村の掬みたいなものだし手伝いに帰るけど月2回は大変だから月1回で勘弁してもらってるよ。だから半分は70歳を超える両親だけでやってもらうことになるんだよね。元気なうちがいいけどいずれ呼び寄せることも一つの手なのかな。」(飛騨市出身県職員インタビュー)
- ・「以前は田植えと稲刈りくらいしか帰らなかったが、両親が共に80を過ぎてから月2回程度家のことをしに帰ってる。退職後は実家に戻ると妻と約束しているけど、本心はもっと早く帰りたいし、実際に帰る時になったら妻がどう言うかわからない。」(郡上市出身県職員インタビュー)

日々の暮らし

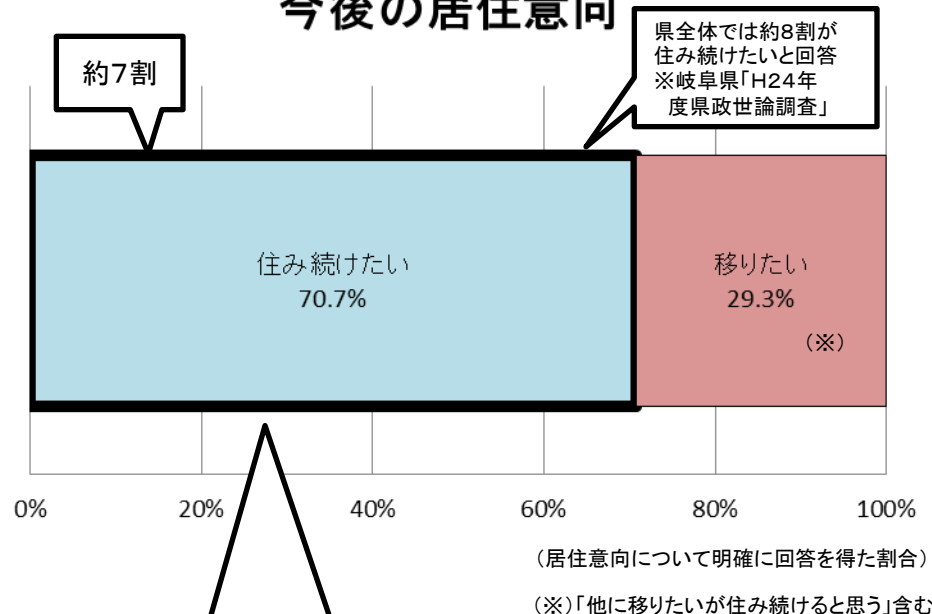
- 7割以上の世帯が日々の暮らしに満足している。
- 約7割の世帯が今後も住み続けたいと考えている。

日々の暮らしの満足度



様々な将来への不安はあるものの、現状の生活に多くの人が満足している。

今後の居住意向

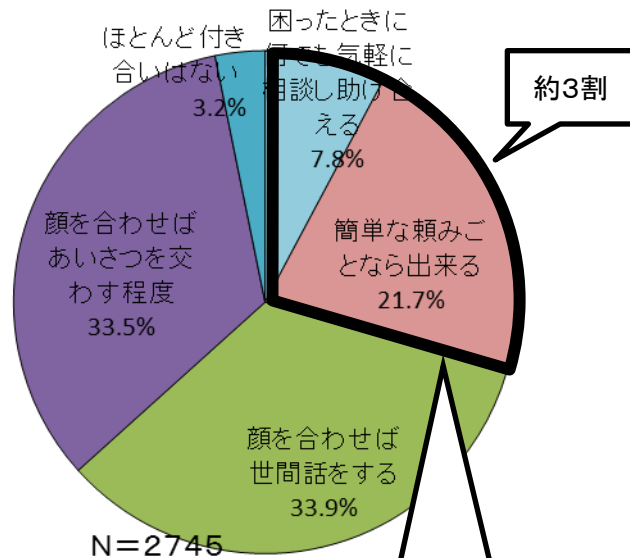


多くの人がこのまま集落に住み続けたいと考えている。

隣近所の付き合い

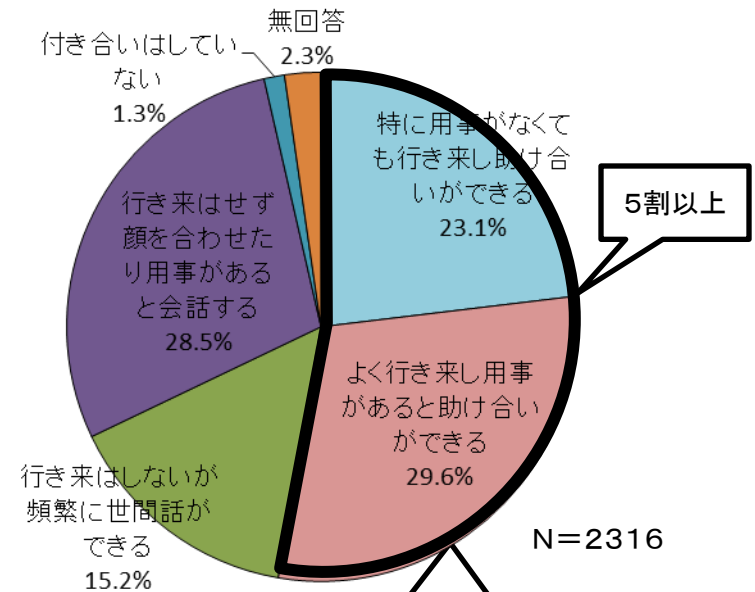
○過疎地域では都市部と比べ、隣近所との日常的な助け合いが出来る割合が高い。

都市部における近所付き合いの程度



都市部において日常的な協力体制がある割合は29.5%

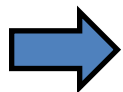
過疎地における隣近所との付き合い



52.7%において隣近所の付き合いが深く、日常的な協力体制がある。

これまでの整理

- 地域には公共交通機関等に不便な面があるほか、買い物・医療が近隣で果たせないなど生活機能が不十分な実態がある。しかし、多くの世帯が自家用車を運転できるため、現在の生活に不便は少ない。
- 自家用車を運転できない世帯であっても別居家族や隣近所が支え合い、様々な支援サービスを活用しながら生活しているため、住民の暮らしの満足度は高い。しかし、その支え合いも人が減り、地域の絆が弱くなる厳しい中でなんとか保っている。
- 世帯・集落の実態を把握するためには、別居家族等が抱く将来の展望を含めた関係性をみることが重要である。
- 現状の生活を維持・向上するため、また、将来に自家用車が運転できなくなる時のため便利なデマンド型交通が望まれている。



血縁・地縁による支え合いや、各種生活支援サービス等の提供により、多くの世帯は日常生活に満足している。